

平成 22 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

# 社会福祉法人聖ヨハネ会

## 基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

## 基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

## 職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力を努めます。

## 活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

# 平成 22 年度事業報告

## 目 次

一	平成 22 年度事業報告	1
	法人本部事業報告	2
二	事業経営	4
	1 障害福祉部門	4
	2 高齢福祉部門	20
	3 医療部門	38
	4 公益事業部門	44
三	理事会並びに評議員会	46
四	経営会議	50



## 一 平成 22 年度事業報告

### 【はじめに】

平成22年度は民主党政権のもと、公共事業中心の経済政策からの脱却・偏った市場原理主義に基づく経済政策からの脱却が唱えられ、環境問題や少子高齢化を解決する、あるいは急速に成長するアジア、国内の資源を活かせる観光分野などへ積極的に取り組むことでこれらが生み出す大きな需要により雇用を拡大し、そこから経済の拡大（強い経済）、財政の再建（強い財政）、社会保障の充実（強い社会保障）という好循環をつくり出す施策がとられたが、目に見える効果はそれほど期待できるものではなかった。

一方で「新しい公共円卓会議」に代表されるように、今までの政府主導のやり方では社会的課題は解決できないという考えのもと、社会福祉法人においても制度化されたサービスの提供だけでは特別法人としての存在意義がないとされる意見が出されるようになり、改めて法人が進めていくべき方向性を構築して全体で共有していく必要があると感じさせられた。

そして平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生した。世界に類を見ない震災規模となり、多くの尊い命が奪われ、今もなお被災している方々がいる中で、地域が結束して生活をしていく、その地域で当法人のような公共機関がどれだけの役割を果たしていかなければならないかということを感じずにはいられない震災であった。

国や政府といった大きな組織では賄いきれないきめ細やかなサービスや支援が地域には必要であり、そのための法人としての態度、考え方、取り組み方等を明確にしてわかりやすく示していくことを本気で考える必要がある。

## ■法人本部

### 【事業報告】

1. 事業計画書に則り昨年度から引き続いて、当法人の本部機能がどうあるべきかという命題を掲げながら、その礎を築いていくために、各施設との関わりを持つことを目的として施設の運営会議や管理会議等へ参加をした。
2. また、法人の業務を示す定款細則の見直し、法人の運営活動の根幹となる規程類の改廃、法人全体の組織図、法人沿革の整備を行った。
3. 富士聖ヨハネ学園の東京事業課について、入所施設運営とは違った事業であること、管理運営も山梨から学園長が遠隔で行っていること、事務処理等が煩雑になっていることから、「障害者地域生活支援センター」として分立をした。
4. 法人内で統一したホームページを作製するために、法人本部及び各施設からメンバーを募り、ホームページ会議を立ち上げ、検討を開始した。
5. 小金井訪問看護ステーション及び富士聖ヨハネ学園東京事業関連の会計業務及び、障害者地域生活支援センターの事務業務をサポートした。
6. 社会、経済の状況が大きく急激に変化し様々な制度改革が行われる中、当法人はその存在意義を明確にし、社会福祉事業を営む信頼性の高い法人であることを示していく必要がある。そこで世の中の情勢と変化のスピードを勘案し、向こう3年度の行動計画を「中期行動計画」として策定した。
7. 庶務・登記・監査事項等

#### 1) 定款変更認可申請

平成 22 年 6 月 16 日申請（平成 22 年 11 月 25 日認可）

申請内容：理事・評議員定数の変更による条文変更

寄付によって株式を保有したことによる条文追加

富士聖ヨハネ学園の建物増築に伴う基本財産の追加

平成 19 年の国土調査による基本財産の地番等の変更

（富士聖ヨハネ学園）

#### 2) 登記

登記年月日	登記内容
平成 22 年 5 月 27 日	資産総額 (3,771,350,535 円)

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 22 年 5 月 12 日 平成 22 年 5 月 18 日	決算監事監査	村松監事、駒村監事、 米川監事
平成 22 年 9 月 15 日	平成 22 年度障害福祉サービ ス事業者等の実地指導 (忍野聖ヨハネアビレッジ)	山梨県福祉保健部 障害福祉課
平成 22 年 10 月 8 日	平成 22 年度財政援助団体 等監査	東京都監査事務局 監査第二課
平成 22 年 12 月 17 日	平成 22 年度社会福祉法人 等指導監査 (富士聖ヨハネ学園)	山梨県福祉保健部 監査指導室
平成 23 年 1 月 14 日	指定訪問看護ステーショ ンに対する実地指導 (小金井訪問看護ステーション)	東京都福祉保健局 指導監査部指導第三課 介護機関指導係

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 22 年 6 月	社会福祉法人調査票	東京都福祉保健局指導監査 部指導調整課指導調整係
平成 22 年 6 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機 構
平成 22 年 6 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇 用支援機構
平成 22 年 7 月	財務情報調査	全国社会福祉施設経営者協 議会
平成 22 年 7 月	エネルギー使用状況届出書	関東経済産業局
平成 22 年 8 月	平成 22 年度民間社会福祉施設に おける給与制度に関する調査	東京都社会福祉協議会
平成 22 年 8 月	60 歳以降の従業員の働き方と雇 用管理の調査	独立行政法人高齢・障害者雇 用支援機構
平成 22 年 11 月	省エネ法改正に伴う特定事業者 の中長期計画書、定期報告書	関東経済産業局 関東信越厚生局

5) その他

東日本大震災の被災地に向けた義援金  
法人内の職員義援金 893,416 円  
一般の方からの義援金 78,271 円  
以上を中央共同募金会へ寄付した。

## 二 事業経営

### 1. 障害福祉部門

#### 【 総 括 】

今年度を振り返ってみると、障害者の新しい考え方の始まりの年であった。

民主党政権は障害者権利条約の批准に向け国内法の制度の改革や整備を推し進めている。「障害者制度改革推薦会議」を月2～3回のペースで開催し、改革案の検討が進んでいる。推進会議から分かれた総合福祉部会、差別禁止部会が開催させている。

障害者基本法の抜本的改正、障害者自立支援法に変わる新たな障害者総合福祉法の制定、障害者差別禁止法の3つを柱として改革を進めて行くようである。

①障害者制度改革推進会議では障害者基本法の抜本的改革に向けて22年12月17日に国へ2次答申を出している。

②総合福祉部会では障害者総合福祉法について審議をして平成24年法案を提出25年8月に施行を目指している。

③禁止部会では障害を理由とする差別の禁止に関する法律を平成25年法案国会提出に向け進めている。

昨年12月に議員立法にて提案された障害者自立支援法等の一部を改正する法案が成立した。21年当初より既に改善しているサービスもあり、見直し・充実強化など期待される。東京都の補助金であるサービス推進費の再構築も実施されることになった。同推進費は、来年度（平成23年度）より3年間をかけて段階的に補助金が減額をされ、平成26年度には本施行となる。このことにより収入が大幅ダウンとなるため、経営の効率化と努力をして行かなければならない。



## I - i 富士聖ヨハネ学園

(生活介護・施設入所支援・短期入所)

### 【平成 22 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H22度)	利用率(H21度)	利用率(H20度)
生活介護	180名	168.1名	93.4%	95.5%	95.5%
施設入所支援	150名	140.8名	93.9%	94.6%	96.6%
短期入所	8名	3.2名	40.0%	21.2%	23.7%

平均年齢 44.4 歳（最高 79 歳、最低 19 歳）

男女比率 52 : 48

平均在所期間 18.7 年（最長 38.7 年）

年間入所 3 名 主な入所理由（児童施設から、帰来先なし）

年間退所 8 名

### 【職 員】

	平成 22 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 23 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
副園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
生活支援員	64	59	123	3	2	15	13	18	15	65	61	126
事務員	5	1	6	0	0	1	0	1	0	5	2	7
栄養士・調理員	5	13	18	0	1	1	0	1	1	4	14	18
設備等	1	3	4	0	0	2	1	2	1	1	4	5
医師	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
看護師	3	1	4	0	0	1	0	1	0	3	2	5
医療事務員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
相談支援員	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
合計	81	79	160	3	4	20	14	23	18	80	85	165

## 【施設運営状況】

年度末には学園が忍野村に来て初めての経験ばかりがあった。2度の大きな地震、それに伴う停電、未曾有の東日本大震災にて学園全体が大きく揺れる。19時間という長い時間の停電は利用者さんにとっては初めての経験ではないか。地震に伴い計画停電という全く経験のない3時間の停電日替わりメニューのように変わる停電時間が続き、利用者さんの生活を守る事を中心にプログラムを組み直した。そんな時、静岡東部を震源とする強い地震があり、忍野村は震度5強を観測する。学園でも大きく揺れるが東日本大震災の時よりも揺れは小さかった様で皆さん不安を口にしながらも落ち着いて行動していた。

### 「利用者さんの給食のサービスの充実を目指し新調理法の導入を進める。」

真空調理法の導入を検討してきたが、利用者さんの誤嚥性肺炎の入院者が多くなり、食事の形態を先に対応する必要に迫られ、10月より方向を転換した。外部の作業療法士の先生を中心に各職場より委員を出し、食の改善検討会（ソフト食導入プロジェクト）を月1回開催した。今年度はソフト食の必要な人を各棟よりあげて、試験的に食べて頂き誤嚥防止の有効性の確認が出来た。来年度はソフト食に対応できる設備やメニューの開発などを進め、導入に向けて取り組んでいきたい。

### 「利用者さんの生活の基礎となる設備の充実を図る」

- ①開設当時から電気設備の一部であるトランス設備と主線の工事を東京都の補助金にて行った。来年度は棟の電気設備の改善を進めていきたい。
- ②給湯設備を集中型から分散型に転換して効率のよい給湯設備への移行を検討してきた。省エネ法の改正に伴い、法人全体のエネルギー削減計画が義務付けられた。削減に向けての取り組みは、平成23年度も継続となる。
- ③通所部の設備の充実を図り通所者の環境と利便性を考え訓練棟2階の改修工事を実施した。

### 「利用者さんの日中活動」

利用者さんの日中活動のグループ編成の再構築を6月よりはじめた。利用者さんに合った日中活動を目指して、介護やリハビリを主とした利用さんと作業を主とした利用者さんの支援を分けた。来年度は、組織を作り上げていきたい。

### 「東京事業課」

11月には東京事業課が学園の組織の中から分立をした。遠隔地での管理の問題と事業活動も多くなり、事業の整備を考え、年度の途中ではあるが分立に踏み切った。東京の福祉の担い手として足跡を残してもらいたい。

障害者支援施設(平成23年3月末現在)

生活介護定員 180名      現員 167名

施設入所定員 150名      現員 141名

## 【利用者支援状況】

### 1.個別支援計画の充実

- ・期限を設けた具体的な計画の策定を目指すこととした。
- ・希望、要望の聞き取りを、利用者と家族に対して別々に行い、それぞれのニーズを明確にして、計画に反映させていくこととした。

### 2.日中活動の充実

- ・利用者の活動の充実に向けて、新たな活動を設定した。

### 3利用者特性について

#### (1)障害福祉の流れ

- ・障害者自立支援法や障害者の地域移行の考え方の浸透から、新規の入所施設利用者は重度障害または行動障害の方の利用が多くなっている。

#### (2)重度・高齢化

- ・利用者の重度・高齢化が進んでいるため、従来の支援に加え、介護の視点を持った支援が必要とされており、介護力の充実が不可欠となっている。

#### (3)行動障害

- ・自閉症等に伴っての行動障害のある利用者が増えてきたため、より個別の対応が求められるケースが多くなってきた。それに対応する障害特性の理解と支援が求められている。

#### (4)再構築

- ・障害福祉の流れと利用者の状況を勘案して、今後の障害福祉事業に向けての新たなソフトとハードの構築が急務となっている。

## 【施設整備状況】

### ボイラー工事

法人全体として省エネルギー対策として取り組んでいくことを踏まえ来年度以降に行うこととした。

### 厨房改修

ソフト食導入を先行して行ったことにより、今年度は調理器具のコンベクションオーブンの導入等を行い、当初のチルド食に向けた改修工事、器具の導入、厨房の改修等については、来年度以降に施設全体の改修を見据えて行っていくこととした。

上記2件について、次年度以降に先送りしたため 資金的に修繕積立金を設けた。

### その他

トランス交換を含めた電気工事、地デジ対応に伴う配線工事、テレビの入替、サービス棟の壁塗り工事、訓練棟の改修、園内舗装工事のほか リハビリ棟（体育館）の改修及び 園内の遊具の撤去作業等について工事を行った。

固定資産の取得関係についてはホイローダー（雪かき他）の導入 上記、給食へコンベクションオーブンの導入のほか事務所のコピー機の入替、給食に栄養計算ソフト 経理に給与計算ソフトの導入等を行った。

**【教育研修】**

研修名	月日	場所	出席者
施設での人権（講師 法務局）	9月17日	学園リハビリ棟	職員 84名
感染症予防の研修	1月20日	学園研修室	学園職員 48名
3施設合同研修会 利用者支援研修	3月5日	山梨県民文化ホ ール会議室	学園職員 23名 (3施設 98名)

その他 外部研修 69回 参加者 202名

園内研修 12回 参加者 314名

※ 参加記録・報告書

I-ii 富士聖ヨハネ学園ーグループホーム  
(共同生活介護・共同生活援助)

【平成22年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H22度)	利用率(H21度)	利用率(H20度)
河口湖聖ヨハネケアビレッジ	10名	10名	100%	100%	100%
明見聖ヨハネケアビレッジ	6名	6名	100%	100%	H20/1開設
下吉田聖ヨハネケアビレッジ	7名	6名	86%	100%	H20/6開設
忍野聖ヨハネケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	H21/4開設

平均年齢 45歳（最高64歳、最低20歳）

男女比率 15（男性）：14（女性）

平均在所期間 4.8年（最長20.25年）

年間入所 0名

年間退所 1名 退所理由 保護者の転居に伴う退所

【職員】

	平成22年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成23年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	3	15	18	1	0	0	1	1	1	4	14	18
合計	3	15	18	1	0	0	1	1	1	4	14	18

【施設運営状況】

●河口湖聖ヨハネケアビレッジ

- 利用者間のトラブルは引き続きあるものの大きな問題にまでは発展しなかった。毎月利用者の話し合いを実施し、不満や要望を聞き対応した。
- 健康面では、通院の多さが目立った。精神科の定期診察に加えて、皮膚科・内科・眼科・歯科への通院を行った。腰痛等の訴えにより、特定の利用者の整形外科への通院が際立った。利用者の高齢化に伴い、通院の必要性が増加すると思われる。
- 学園の通所部、ワークセンター、くるみ福祉作業所、パルパル、ありんこ福祉作業所、堀内クリーニング、富士聖ヨハネ学園、加藤電気、それぞれの日中活動や仕事に通所・通勤している。通所先への不満から、通所を中断したケースは、一時通所を再開したが、残念ながら中断したまま年度が終わってしまった。CVのお手伝い等の支援の中で通所の席はそのまま継続することとなった。就労者も1名、対人関係の問題で退職することとなった。外部の就労支援者の援助を受け、次の就労先を探すこととなった。

●明見聖ヨハネケアービレッジ

- ① 利用者さん同士の関係は、大きなトラブルに発展することも無く安定していた。飴の購入に関して、肥満への対応として中止したい支援者と当人の間でトラブルとなったが、継続した話し合いによって解決した。
- ② 健康面では、発作への対応のため、家族の理解と協力のもと服薬調整を行い、改善が見られた。大きく体調を崩す方も見られず、安定した生活がおくれた。課題として肥満の問題がある。
- ③ 学園の通所部に全員通っている。

●下吉田聖ヨハネケアービレッジ

- ① 落ち着いた生活を送っている。家庭的な雰囲気と潤いのある生活を目指し取り組んだ。前半は、睡眠の不安定な面があったが、服薬調整により後半から安定した睡眠となった。
- ② 健康面では、肥満が課題となっている。食事の写真を活用し、改善に取り組む。学園の診療所と連携し、無理のない改善に努めた。徐々に体重が減少したが、食事のメニューの偏りの改善を次年度の課題としたい。
- ③ 学園の通所部に全員通っている。

●忍野聖ヨハネケアービレッジ

- ① 笑い声や会話が多く見られる。落ち着いた雰囲気の中で楽しい時間を共に過ごしている。無断外出を繰り返していた利用者も安定した生活を取り戻し、自分の将来に向けた生活に取り組んでいこうとしている。
- ② 健康面では、特に問題となる事柄はなかった。
- ③ 学園の通所部とワークセンターに通所している。
- ④ 利用者への一方的な暴力によって、共同生活が営めない利用者への対応に苦慮した。学園の宿舎を利用し、生活をしてもらう。福祉事務所には、法人と連携し、支援困難者として相談している。山梨県の指導検査時に指摘を受けているので、早急に改善していきたい。

**【利用者支援状況】**

個別外出に関しては、協力会を活用し、個人の希望に沿った外出支援を実施した。

全体：合同クリスマス会の実施

河口湖：個別外出の充実、月1回の利用者会議の開催

明見：余暇活動や散歩に努める

下吉田：週末の外出や散歩に努める、地域の方を招いてのイベントの実施

忍野：他のCVとの交友に努める

### 【施設整備状況】

- 河口湖聖ヨハネケアービレッジ
  - ・トイレと風呂場に手すりを設置
  - ・ボイラーの交換
  - ・テレビ配線の増設
  - ・火災報知機を無線連動式に交換
- 明見聖ヨハネケアービレッジ
  - ・トイレと風呂場に手すりを設置
  - ・壁の防虫対策
  - ・車いす用のスロープの設置
  - ・浄化槽のモーター交換
- 下吉田聖ヨハネケアービレッジ
  - ・トイレと風呂場に手すりを設置
  - ・廊下の暖房器具の側面の壁を防炎ボードに変更
- 忍野聖ヨハネケアービレッジ
  - ・トイレと風呂場に手すりを設置
  - ・流し台の交換
  - ・風呂場の換気扇の設置
  - ・雨漏りの対策工事
  - ・天井の修理

### 【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
全国グループホーム・ケアホーム研修	7/7～8	香川県高松市	渡辺美津代
学園理念を学ぶ	11/4～5	聖霊修道会 小金井本部	松田壽七(学園より他 11名参加)
権利擁護について考える	12/17	甲府市東公民館	堀内美香(学園より他 3名参加)

※ その他学園主催の研修に参加

I - iii 富士聖ヨハネ学園 一就労支援事業（下吉田ワークセンター）  
（生活介護/就労継続支援 B 型）

【平成 22 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H22 度)	利用率 (H21 度)	利用率 (H20 度)
就労継続 B 型	10 名	8 名	80%	30%	20%
生活介護	10 名	8 名	80%	90%	100%

平均年齢 歳(最高 65 歳 最低 19 歳)

男女比率 男子 12 名 女子 6 名 2 : 1

平均在所期間 1.16 年(最長 2.7 年)

年間入所 4 名 主な入所理由(就労希望)

年間退所 就労継続 B 型 1 名 生活介護 1 名

【職 員】

	平成 22 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 23 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	1	4	5			2	2	2	2	1	4	5
看護師		1	1								1	1
合計	1	5	6			2	2	2	2	1	5	6

【施設運営状況】

- \*地域との連携を図る。(毎月商店会の会合に出席し、情報収集を行う)
- \*バザー・お祭りなどに来店し、せんべいの販売を行う。
- \*学園の食器洗浄業務を行う。
- \*支援学校の実習生の受入れを行う。

【利用者支援状況】

- \*利用者の相性を考え、ワークセンターと食器洗浄の仕事に分けた。  
人によっては1週間のローテーション勤務とした。
- \*対応の難しい利用者が入所され、3ヶ月くらいは対応に苦慮した。一人のみで関わるのではなく複数で対応できるようにした。



**【施設整備状況】**

\* 食器洗浄用移動シンク購入。

\* 食堂掃除用ポリッシャー・食堂掃除用具一式購入。

**【教育研修】**

研修名	日時	場所	出席者
東社協主任職員研修		日本財団ビル	亀沢泰憲
個別支援計画書作成 研修	3/7・8	戸山サンライズ	平賀久二仁
感染症予対応の研修		リハビリ棟	板倉 勇、加藤麻衣 新田 操、宮下智美、 山本美和

※ その他 学園主催の前期・後期研修に参加

**Ⅱ－i 障害者地域生活支援センターグループホーム**  
(共同生活介護・共同生活援助)

**【管理部門設立について】**

平成 22 年 11 月 1 日に従前の東京事業課が富士聖ヨハネ学園から分立し、東京地区事業所の管理センター的機能を果たす障害者地域生活支援センターを設立した。

平成 23 年 4 月 1 日からの本格稼働に伴い、桜町一丁目敷地内(本部修道院裏)に事務所を設け、その為の初期準備品として下記の購入と構築準備を行った。

(パソコン 2、会計ソフト、給与ソフト、複合機(リース)、金庫、事務机 4、椅子 6、支援センター看板、電話・インターネットの設置工事等)

**【平成 22 年度利用状況報告】**

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H22度)	利用率(H21度)	利用率(H20度)
小金井聖ヨハネ第1 ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%
小金井聖ヨハネ第2 ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%
清瀬聖ヨハネ第1ケ アビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%
清瀬聖ヨハネ第2 ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%
桜町聖ヨハネケ アビレッジ	7名	6名	85%	85%	85%

平均年齢: 小金井第1 42.1歳(最高58、最低28) 第2 44.2歳(最高56、最低31)  
清瀬第1 41.5歳(最高57、最低23) 第2 46.1歳(最高70、最低28)  
桜町 53歳(最高55、最低49)

男女比率: 小金井 男性7:女性7 清瀬 男性7:女性7 桜町 男性2:女性4

平均在所期間: 小金井7年(最長7年) 清瀬5年(最長5年) 桜町2年(最長2年)

年間入所 0名

年間退所 0名

**【職 員】**

	平成 22 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 23 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	5	32	37	2	0	9	9	4	4	5	37	37
センター職員						1					1	1
合計	5	32	37	1	0	5	4	4	4	5	38	38

### 【施設運営状況】

- ・ 各ケアビレッジの利用者は、日中は、それぞれ作業所・実習場所・就労場所へ出かけている。
- ・ 年齢層が 20 代から 70 代と幅広く、特に健康管理については重点をおき対応した。健康診断・インフルエンザ予防接種の他、日々の健康管理をおこなった。
- ・ 普段の健康管理のほかに、生活習慣病等の利用者に対して、食事の配慮・運動・医療機関との連携を行い継続支援中である。
- ・ 冬の時期にウイルス性の胃腸炎が流行り通院。消毒などの徹底を図った。
- ・ ケアビレッジからワークセンターへ通勤途中、一般の人とのトラブルによる苦情があり、謝罪をする。以降は職員付き添いのもと、通所している。
- ・ 東日本大震災をうけ、計画停電対策を行う。被害はほとんどなく、計画停電からも免れる。

### 【利用者支援状況】

- ・ 利用者一人一人を尊重した支援を目指し行った。
- ・ 利用者間のトラブルや、苦情については耳を傾け、解決の方向へ導くように支援を行った。
- ・ 精神的に不安定な利用者については、不安材料を取り除けるよう支援を行った。
- ・ 余暇・休日の過ごし方  
週末帰宅する利用者は各家庭にて。ケアビレッジで過ごす利用者に対しては、買い物や、散歩など職員が対応。その他、移動支援を有効に使い本人の希望する外出や過ごし方をして  
いる。自分で外出できる利用者は、思い思いの方法で自分の自由な時間を過ごした。  
また、利用者話し合いで企画したイベントをフォローし、実現へつなげていった。

### 【施設整備状況】

- 小金井聖ヨハネケアビレッジ  
赤い羽根共同募金により地デジ対応テレビの購入、壁への設置 (2 台)  
便器の取り替え  
以前より検討されていた、ケアビレッジと本町小学校との壁に非常門を設置
- 清瀬聖ヨハネケアビレッジ  
赤い羽根共同募金により地デジ対応テレビとプリンター一式を購入  
車椅子対応の車を購入室内扉の修繕
- 桜町聖ヨハネケアビレッジ  
赤い羽根共同募金により乾燥機能付き洗濯機の購入  
サンルーム、消防設備の設置

**【教育研修】**

研修名	月日	場所	出席者
『知的障害者ってなんですか』	7/21	東京都社会福祉協議会	片桐章平・今関静野
施設体験研修	8/4～5	みずもとそよかぜ園	小松淳
カトリック研修	11/4～5	聖霊会	小松淳
知的障害者グループホーム世話人等研修会	12/15	飯田橋レインボービル	西谷明
施設見学「青梅学園見学会」	11/19	青梅学園	石井稔明
知的障害者グループホーム世話人養成研修	12/21	滝乃川学園	石崎治夫

※ その他

**Ⅱ－ⅱ 障害者地域生活支援センター－就労支援事業（小金井ワークセンター）**  
（就労移行支援（一般型））

**【平成 22 年度利用状況報告】**

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H22度)	利用率(H21度)	利用率(H20度)
就労移行支援	20名	14,5名	72,5%	55%	30%

平均年齢 36,25歳(最高 55歳、最低 19歳)

男女比率 男子 7名 女子 9名

平均在所期間 1,5年(最長 2,3年)

年間入所 5名 主な入所理由 就労希望

年間退所 4名 主な退所理由 一般就労

**【職 員】**

	平成 22 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 23 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活支援員	2	10	12	2	0	5	4	7	4	4	11	15
合計	2	10	12	2	0	5	4	7	4	4	11	15

**【施設運営状況】**

- ①小金井市よりの受託業務 公園清掃 5か所 14回/年、砂場清掃 6か所 12回/年、公園トイレ清掃 3か所 2回/週・96回/年 年間を通して行った。
- ②桜町病院栄養課洗浄業務及び職員食堂業務補助を年間を通して行った。利用者は、土日を除く毎日。
- ③桜町高齢者在宅サービスセンター配食部門の洗浄業務を年間を通し、土日・祝日を除く毎日行った。
- ④市内・近隣の15か所の駐車場・アパート周囲の除草作業を行った。
- ⑤室内作業（はがき・ストラップ・刺し子・石けん作り・雑紙入れ作り）等の室内作業を行うことにより、手先の器用な利用者、屋外作業の苦手な利用者にも作業を提供した。
- ⑥調理実習を行うことにより、祝日の昼食を利用者の好みに応えながら、提供するとともに、入所式等にお菓子を出すことが出来た。
- ⑦特別支援学校を訪問する事により、新規利用者の確保、及び地域のニーズ、現状を把握する事が出来た。

### 【利用者支援状況】

- ①就労 2名  
就労先 本町高齢者在宅サービスセンター  
株式会社 Dupay Progress 立川店
- ②福祉的就労 1名  
就労先 東京自立支援センター 就労継続 A 型事業所 とともに
- ③企業実習 5名 市役所実習 10名
- ④企業面接 9名 44社  
うち、一次面接合格 二次面接実施者 2名 (上記就労者は除く)
- ⑤ハローワーク主催・就労グループワークへ1名参加。その他、模擬面接・就労に向けたガイダンスをハローワークより出張して頂き、実施。
- ⑥職業的重度判定1名実施、二年目以降の利用者は、ハローワークへの求職登録を随時、実施。

### 【施設整備状況】

- ①赤い羽根共同募金により、大型冷凍冷蔵庫を購入。
- ②桜町聖ヨハネ祭にて4人乗り軽ワンボックスカーの寄付を受ける。

### 【教育研修】

研修名	日時	場所	出席者
企業・施設見学	6/17	スワンベーカーリー 落合店	渡部まゆみ・高本明子・奥本眞弓
『知的障害ってなんですか』	7/22	東京都社会福祉協議会 A 会議室	井上信彦
JC-NET ジョブコーチ養成研修 (第1号)	9/2~9/7	大妻女子大学 多摩校舎	伊藤英治
東京の障害者就労を考える	9/10	東京しごとセンター	水元 優
第18回職業リハビリテーション研究発表会	11/29 11/30	障害者職業総合センター	渡部まゆみ
特例子会社見学	12/7	(株)ブリヂストンチャレンジド	水元 優・潜道俊秋
就労移行支援事業所と企業との連携を考える	3/10	砂防会館	高本明子

※ その他

JR 東日本グリーンパートナーズ、NTT データだいち、東電ハミングワーク見学



## 2. 高齢福祉部門

### 【 総 括 】

介護保険が始まって11年が経過し、利用者は身体的、精神的な重度化が進み2011年度3月末日には要介護度Ⅲ以上の方は93名（103名中）であった。一方、介護、看護にあたる職員配置基準は変わらず、人材の獲得は難しく人材不足は相変わらず回復していない。従って、介護の心や気持ちはあるものの経験のない、また途中で職種を変更してこの介護の仕事をする職員を採用せざるを得なかった。

一方、特別養護老人ホームの位置づけと役割が「地域包括ケアシステム構想」のなかで見直しがされており、地域の福祉の繋がりの中で役割が果たせるかが問われることになる。

また、介護保険事業はより良いサービスをしようとするほど収支がマイナスになるを得ない介護報酬単価と構成になっている。従って、経営的には事業数を増やすことが必要となる。1事業での利益が少なくても事業数の多さで利益を上げていくことも必要である。

事業展開するにあたって第1に重要なことは、多くの優れた人材がいることであり、職員教育制度の確立が不可欠で、教育をシステムティックに実施していかなければならない。

また、後期高齢者の増加に伴って認知症の方がホーム内だけでなく地域にも多く生活されるようになってきている。認知症の専門的研修を受けて資格をもった職員も多くいる。これらの人材を活用して認知症ケアに取り組むが求められてくる。

以上の状況から、施設内の取り組みとして、

(1) 職員教育システムの構築を目標に新任教育のシステム化を行った。

(2) 今年度の9月より2011年度に向けての課題として検討チームを組織し検討、実施すべき項目をあげて取り組みを行った。

①住み分け検討チーム。②認知症ケア検討チーム。③業務省力化検討チーム。④収入増検討チーム。⑤人材確保対策チーム。

地域に向けては、

「高齢部門戦略室」の設置を行った。具体的には、「高齢住宅」の事業展開を研究することを目的とした。

2011年度には法人本部で「企画室」を立ち上げることとなったことにより、メンバーと役割を再構築することとなる。

今年度、そして来年度は事業展開の大きな分岐点にある。高齢部門はこのことを念頭に施設内外の組織見直しと役割の変化を視野にいれ事業に取り組まなければならない。



## I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

### 【平成 22 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H22 度)	利用率 (H21 度)	利用率 (H20 度)
介護老人福祉施設	104	100.60	96.73%	96.55%	95.11%
短期入所生活介護	8	7.65	95.62%	88.62%	90.92%

平均年齢 88.15 歳（最高 108 歳、最低 70 歳）

男女比率 16 : 87

平均在所期間 4 年 4 月（最長 25 年）

年間入所 16 名

年間退所 15 名

### 【職 員】

	平成22年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成23年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
介護支援専門員	1(3)		1(3)							1(3)		1(3)
看護師	4	4	8	1	0	0	1	1	1	5	3	8
介護員	30	23	50	2	4	1	3	5	7	28	21	49
生活指導員	2		2							2		2
調理員	3	6	10							4	6	10

### 【施設運営状況】

#### 1. 人事制度の確立と定着

今年度はキャリアパス制度の定着と教育制度の確立と定着を重点目標とした。

##### (1) 等級制度の定着

等級制度の定着については、この制度は職員が研鑽し成長するための人材育成を取り入れた給与体系であることの説明会を6回行った。

また、人材育成制度の（考課）の目的とポイントの研修を6回実施、新入人材育成制度説明会を2月から来年度の4月までの間説明会を6回行っている。東日本大震災の影響を受けて4月までかかることとなった。

事務的には、ヨハネらしさを基本とした人事考課表を作成した。また「等級制度規程」「人材育成制度（人事考課制度）実施マニュアル」「面接マニュアル」を作成し、来年度7月から実施するトライアルに間に合うように「考課者のための研修」を実施していく。

##### (2) 教育制度の確立と定着

キャリアパス制度を活用しながら職員を育成し、また職員が自己研鑽による成長 を支

援していくためには、職員教育のための研修システムが必要である。

また等級制度を活用しての昇格の要件としても研修内容の確定が必要である。

今年度は教育企画委員会において介護部の新任者としての研修項目と研修スケジュールを検討し作成した。これにより来年度の新任者研修を実施することとなった。

## 2. 入所の促進

ホームの収入は偏に現実にホーム内に何人在園しているかによって決まるとして、次期入所者の選定の迅速化をはかるための検討を行ってきた。しかし、ホームの利用者の現状及び住環境をみるに、ホームは建設当初は入所者数 100 名とし、ショートステイは想定していなかったが、入所を 106 名、ショートステイ 8 名と居室を増築してきている。

介護保険制度が始まり、2003年10月には「優先入所」、加算による誘導により重度化が一気に進んだ。そして、車いす利用者の増加や食事介助の必要な入所者の増加によるデイルームの過密化、その他共有スペースの狭隘化、また認知症があり、しかも転倒、転落リスクのある利用者が増加した。そしてその方達がフロア全域に点在して生活している状況にあり、例えば転倒やコールがあっても、すぐにいけない実態がある。

かような住環境についての疑問があり、10月に年度後半及び来年度の検討課題として「住み分け」を取り上げることとした。従って今年度は特に入所の促進や迅速化に特に取り組むのを止めたが、年度を通じて退所者が少なく、後期は特に少なかったことにより1日平均100.60名と昨年の100.42名を上回ることとなった。

## 3. 給与体系の再構築

昨年8月より検討を重ねてきた人事育成に資する給与制度の作成と職員の働き甲斐を感じられしかも安定経営の根幹となる給与制度の改訂が不可欠となった。

そこで、

- ①基本給は等級制度を基に1等級から6等級までの昇格に応じた基本給表とした。
- ②介護職、医療職、調理職、事務職の4職種別の基本給表として専門性を評価して構成、また基本給に特殊業務分も含めることし採用についての市場に合ったものとした。
- ③現給与表に比して初任給額を高く見直し、号給が高くなると昇給額がフラットになるように設計、現給与が最高号給に減額していくことをなくした。これにより、長く勤務することをメリットとなるようにした。
- ④管理職、主任、副主任等の職務に関する手当を掛け率ではなく固定額とし同一職務同一額とした。

従来の給与から10月に新給与に移行。新給与を超える場合には移行保障給をして減額となることを防いだ。

これにより、等級制度を基本とした給与制度の運用が可能となった。

## 【利用者支援状況】

### 1. 基本的ケアの充実

私たちは2010年の目標として、基本的ケアの充実を目指し、「利用者が大切にされていると思えるケア」を実践することを目標としていた。入所者の身体的、精神的重度化、特に認知症による徘徊、転倒のリスクの増大、また病院と変わらぬ医療的処置の必要な入所者の増加、重ねて療養型病床の減少により要介護度の重度な方が在宅に生活していることによるショートステイ利用者の重度化もあり、介護現場は身体的にも精神的にもハードなこととなったことに起因している。

昨年度に東京都からの補助金を得て介護部のマニュアルを作成し、今年度はそれに従って職員教育をすることとなっていたが、かような介護現場の状況もあり一年間の内に順調に教育し育てることができなかった。しかし、介護現場が荒れることなく、利用者の向き合い、日々のケアが行われてきたのは、職員一人ひとり優しさと思いやりと気配りなど個々の職員の素質と勤務時間を大きく超えてのケアに支えられていたことによる。

昨年、一昨年前に採用した職員も徐々に育ってきているが、介護部については新任者に対して基本的ケアを計画的に教育していくシステムを今年度作ることができた。

また「利用者が大切にされていると思うケア」に重要なこととして「マナー」のことがある。介護現場では、「相手を大切に思う気持ちを、場面や状況に応じて適切に表現すること」とされ、今年度マナーリーダー養成研修に職員を参加させたのは、来年度以降の職員教育に生かしていくため、このことにも力を注いでいくこととする。

### 2. パックスケアの充実

日々の身体的にも精神的にも居心地のよいその人の場所となれるようにホームは全職員・全職種がそれぞれ入所者に携わってきている。今年度はターミナルケアとして取り組み、帰天された方が14名であった。「老衰」が10名、「心不全」、「肺炎」、「摂食障害」、「高血糖による意識障害」が各1名と診断され、寿命を全うされたと考える。

### 3. ケアマネジメント

モニタリング、アセスメント、ケアプランの作成・実施が的確に行われるよう、利用者担当ケアワーカーを決め、5～6名の利用者を担当し取り組んだ。

ケアプランの作成のために、利用者のできるところに着目しながら、できるだけ思いや希望を引き出し、自立に向けた意欲に転換していくことに取り組んだ。

ケアプランの作成・実施は、担当ケアワーカーがひとりで行うものではなく、各部署協働によるチームアプローチの実施により、サービスの内容がより質の高いものとなることが期待されている。パーソンセンタードケアを目標に据え、その人の生きてきた過程を大切にしたいあたたかいケアが提供できるよう努力をしている。

### 4. 地域福祉サポートネット

今年度も緊急ショートステイを中心とした地域福祉サポートネットの活動を行った。

2010年4月6日～4月8日が第1回で1年間に延べ人員21名（前年15名）、利用総日数179日（前年136日）と在宅で緊急に必要なケースは断らず一旦は保護することがホームの使命であることを確認して今年度は取り組み前年、前々年と利用が減少傾向だったので取り組みを見直した。最短利用は2日（前年1日）、最長利用18日（前年15日）であった。

特徴的なことは、原則の7日を超えて利用するのが21件中10件あり、内14日以上滞在となる件数が6件あった。これは、緊急ショート終了後の受け入れ先や家族の受け入れ態

勢がなかなか調整できず、一種の介護難民となっているケースもあった。

## 5. 食事

年々入所されている利用者が重度化しており、嚥下困難者やADLが低下されてこられる方が増えている。今年も、医務・介護部との連携を密に行い、ご利用者の急な体調の変化にも迅速に対応し、個別対応の充実に力を入れた。

### 食事形態と内容

おかずの形態を常菜(軟菜に準ずる)、粗きざみ、極きざみ、ミキサーとした。主食の量や堅さ、種類(御飯、全粥、ペースト粥、おにぎり、パン)の調節、日々の体調に合わせて、朝・夕と昼の形態を変えたり、個別のゼリー食やソフト食の対応をも含めて、その時々々の体調に合った食事提供に努めた。

- ①常菜食 8名 ②粗きざみ食 33名 ③極きざみ食 27名 ④ミキサー食 14名  
⑤ゼリー食 16名、その他 ⑥治療食、⑦代替食 ⑧クックチル・フリーズ食品を提供した。

## 6. 利用者の状況

2010年度も、通りごとに副主任格のストリーターを配置し、職員一人ひとりの育成と質の向上に努めた。利用者については、前年度に引き続き個人担当とし、ケアプランを確実に把握し、きめの細かい対応ができるよう取り組んだ。

### 〔I〕 利用者のADL状況について

※ADL状況について<2011年4月1日現在・単位(人)・103名>

種類 \ 区分	自立	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	24 (23.3)	36 (35.0)	15 (14.6)	28 (27.2)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	11 (10.7)	13 (12.6)	41 (39.8)	38 (36.9)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	7 (6.8)	2 (1.9)	9 (8.7)	85 (82.5)
排 泄・排 尿 (構成比 %)	5 (4.9)	6 (5.8)	17 (16.5)	75 (72.8)
排 泄・排 便 (構成比 %)	5 (4.9)	5 (4.9)	17 (16.5)	76 (73.8)
入 浴 (構成比 %)	0 (0.0)	0	20 (19.4)	83 (80.6)
起 床 (構成比 %)	2 (1.9)	0	53 (51.5)	48 (46.6)
寝 返 り (構成比 %)	3 (2.9)	0	65 (63.1)	35 (34.0)
立ち上がり (構成比 %)	0 (0.0)	0	38 (36.9)	65 (63.1)
歩 行 (構成比 %)	5 (4.9)	0	15 (14.6)	83 (80.6)

前年度と比較して、食事全介助者は、16名から28名と増加し、自立の方が32名から24名になり、全体的には食事時は見守り、介助が必要になっている。衣類着脱・上着はあまりかわっていないが、衣類着脱・ズボンの全介助が81名から85名になっている。排泄・排尿、排泄・排便は、自立されている方が少なくなり、全介助者がそれぞれ75名、76名と増加している。入浴は、一部介助・全介助者になっている。

起床と立ち上がり、歩行、寝返りについては、自立されている方が少なくなり、介助と一部介助になっている。

## 7. ボランティアの受け入れ

今年度のボランティアの活動件数は、活動回数 1,783 回、実人員 798 人、延べ人数 3,872 人であり、活動状況は下記のとおりである。

昨年度との比較では、活動回数+151 回、実人員+126 人、延べ人数+332 人である。昨年度、内外での新型インフルエンザ、ノロウイルス流行による影響により、ボランティア活動休止が多く、活動総数が大幅に減少したことを含めると、全体としてはボランティア活動は減少傾向にある。

### 【施設整備状況】

今年度は厨房の関連の備品が経年劣化してきて買い替えの時期となってきたこと及び食事内容、食事介助によりきめ細かな対応必要となりそのための備品整備が必要な年となった。そのため、前年度から用意した積立金を活用した。

コンベクションオーブン 2 台	1,207,500 円
ブラストチラー	1,044,750 円
温冷配膳車 2 台	2,088,240 円
食器洗浄機	3,353,700 円

昨年のノロウイルス感染症の経験から、高熱消毒にできる汚物除去機 2 台と玄関に手洗い専用の洗面台の設置を行い、感染症対策とした。

汚物除去機 2 台	1,312,500 円
洗面台	416,855 円

無形固定資産としては給与計算ソフトが新しい OS に対応していないので、交換することとした。

給与ソフト	462,000 円
-------	-----------

修繕については、前年度に引き続き今夏も冷房機がフル稼働できず冷却水ポンプの修繕を行った。他は経年によるエレベータ関連の修繕を行った。貯湯槽内部の腐食が激しく防蝕工事を行った。前年比 1454,478 円増の 7,272,301 円であった。

冷却水ポンプ整備	456,540 円
エレベータ巻き上げ機取替	672,000 円
エレベータブレーキ、バッテリー交換	327,600 円
貯湯槽防蝕	1,125,733 円

### 【教育研修】

今年度は 64 件の研修会に参加した。

- (1) 今年度の目標である「利用者が大切にされていると思えるケア」を実践するための研修に参加した。特にサービスマナーリーダーについての研修は今後のケアの専門性についての考え方に貢献性があるものであった。その他、認知症に関する研修、治療食に関するもの、口腔ケアに関するもの、感染症に関するもの等の研修に参加した。
- (2) 人事制度の実践定着に向けた研修としては、園内研修を中心に新給与制度や人事考課基礎研修、人材育成制度説明会などのシステムの研修を実施した。また、研修体系が整ってはいないが、東社協などで行う新任研修、中堅研修、管理職研修に従来通り参加した。これらの研修はいずれ体系化する。

### (3) 資格取得の研修支援

認知症介護リーダー研修、認知症指導者養成研修、社会福祉士資格取得対策、介護支援専門員等の研修に参加し、認知症利用者対策が今後大きな柱になる事を考慮し、認知症関連の研修も重要視したり、職員の資格取得の援助として介護支援専門員試験対策の研修への参加支援を行った。受験料についてもホーム負担している。

感染症についての園内研修においては、ノロウイルス感染対策を保健所から対策理解キットを借用して昨年の園内感染を考慮して10月14・15日に園内研修を実施した。

#### 2010 年度研修参加一覧表

2011/5/10 現在

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	10年度新任職員教育	聖ヨハネ会	ホーム、桜町センター、本町センター	4月1日～3日	秋本、山口、佐藤、鳳、須永、吉井、赤沼
2	認知症介護研修公開講座	東京都	東京都社会福祉保健医療研修センター	4/15,16	岩崎、宗像
3	平成22年度認定調査新規研修	東京都(小金井市)	立川市市民会館	4月27日	岩崎、宗像
4	「中堅介護職のための総合的・専門的・継続的研修」	東京都福祉人材センター	上智大学四谷キャンパス	4/17、5/15,6/19,7/17,8/28	流
5	平成22年度認知症介護指導者養成研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部		5/10～7/9	遠藤
6	介護主任の役割と求められる現場マネジメント力	日経研出版	内神田サニービル	5月22日	木野、三ヶ部
7	平成22年度 新任職員研修	東京都福祉人材センター	東京都社会福祉保健医療研修センター	5/11～12、6/1～2、6/8～9、7/6～7、7/13～14、7/21	山口、吉井、秋本、佐藤、須永、鳳、赤沼
8	「高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ」研修会	東京都社会福祉協議会	おくたま路	6/14～15、7/26～27	志藤 将三ヶ部
9	22年度「専門コース」労働時間管理講習	財)介護労働安定センター	中野サンプラザ	6月15日	谷村
10	2010年度スキルアップ講座	日本社会事業大学	日本社会事業大学	6/20、7/4	石山
11	第2回認知症介護研修公開講座	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	6/24、25	及川
12	平成22年度高齢者福祉施設におけるサービスマナーリーダー養成研修会	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	6/11、7/14、8/13、10/20,1/12	橋本
13	平成22年度介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	NPO法人 東京都介護福祉士会	東京しごとセンター	7/18、19、8/8,29	秋
14	「これからの病院食システムを考える」	コメットカトウ	コメットカトウ東京支店 ショールーム	6/18,19	池ノ谷
15	危険物実務講習会	小金井危険物安全協会	小金井消防署1階防災教室	H22.6.11	河野
16	H22年度 人権問題雇用主研修会	立川公共職業安定所	アミュールたちかわ	6月17日	谷村
17	「社会福祉施設における情報管理ガイドライン研修会」	財)東京都福祉保健財団	あいおい損保新宿ホール	6月23日	石山
18	H22年度 社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局	東京都社会福祉保健医療研修センター	7月5日	谷村
19	「介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修」	財)東京都福祉保健財団	なかのZERO	7月14日	石山
20	「介護職員における記録に関する研修会」	東京都福祉協議会	武蔵野スイングホール、研究社英語センター	①7/17、②7/21	①吉井、②須永
21	栄養士・調理師研修会	東京都社会福祉協議会	食糧学院	7月29日	外園
22	「施設ケアマネージャー業務における課題抽出と問題解決を考える」	東社協 高齢者施設福祉部会	全理連ビル	8月12日	宗像
23	ショートステイ テーマ別情報交換会	東社協	国分寺Lホール	8月24日	牛島・志藤・益井
24	平成22年度「介護支援専門員実務研修受講試験対策講座」	東京都社会福祉協議会	あいおい損保新宿ホール	8月28日	吉田、星野、福垣、木村
25	福祉職員「中堅職員研修」	東社協	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/26・27、11/9・10、11/24・25	益井、野中、荒井、俵木、三井、秋
26	東京都認知症介護実践リーダー研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	8/30～11/16	永野
27	「労働基準法に関する研修会」	東京都社会福祉協議会	なかのZEROホール	9月14日	谷村
28	平成22年度介護福祉士筆記試験対策講座	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	10/2、16、24、30、11/3、28	須永
29	アクティブ福祉in東京 '10	㈱アイフイス	新宿京王プラザホテル	10月5日	浅見
30	2010年度スキルアップ講座	日本社会事業大学	清瀬キャンパス	10/2、16、11/13、27	牛島

31	地域包括ケアと介護保険 制度改正の見直し	東京都社会福祉協議会	横浜市鶴見公会堂	2010/9/19	石山
32	高齢者の口腔ケア実技研修会	東京都多摩府中保健所	東京都多摩府中保健所	9/15、24	大田、山中、天野、吉田
33	平成22年度社会福祉士国家試験対策講座	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	11/14、21、27、12/5	鶴澤
34	社会保険事務講習会	東京社会保険協会	フィオーレ東京	10/19	谷村
35	園内研修「ノロウイルス感染対策について」	ホーム	ホーム3F	10/14、15	ホーム、センター職員
36	第7回認知症介護実践者研修課程	東京都社会福祉法人、社会福祉協議会	東京都研修センターほか	10/12、13、19、20、26 11/12	及川
37	あそか苑 交換研修	あそか苑、ホーム	あそか苑、ホーム	11/23-26	町山、鳥海
38	2025年の認知症ケア	浴風会、認知症介護研究、研修東京センター	よみうりホール	11月13日	小田代、遠藤、森川、志藤
39	事例から学ぶ面接技法の効果的アプローチ	高齢者施設福祉部会	国立オリンピック記念青少年センター	11月18日	牛島
40	第26回日本カトリック老人施設協会全国研修大会	日本カトリック老人施設協会	大分別府湾ロイヤルホテル	11/16-18	Sr. 相松、石山、小田代、三ヶ部、流
41	胃ろうを通してそれぞれの生命を考える	NPO東京都介護支援専門員研究協議会	全電通ホール	12月3日	及川、森川、木村
42	介護現場の最新 感染予防の具体策	日総研出版	フォーラムミカサ	12月4日	志藤
43	H22年度東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局	東京都福祉保健医療研修センター	12月1日	石山
44	施設内リーダー職員研修 看護実務者研修	財)東京都福祉保健財団	東京都福祉保健財団15階多目的室	12月6日	小林
45	介護現場のスキルアップ研修会	生活とリハビリ研究所	全林野会館	2010/12/23	小野、内木
46	指導的職員研修	東京都福祉人材センター	東京都社会福祉保健医療研修センター	①11/30、12/1 ②12/7、8 ③1/13、14 ④1/25、26	①橋本 ②森川 ③鳥海 ④及川
47	今こそ、攻めのメンタルヘルス対策	厚生労働省、中央労働災害防止協会	東京国際フォーラム	1月14日	石山
48	感染防止研究会	感染防止研究会	野口英世記念館	2月5日	小林
49	介護フォーラムイン東京	イワツキ株式会社	東京産業健康保険組合 産業健保会館	1月17日	三井、荒井
50	平成22年度施設長研修会	社福)東京都社会福祉協議会	フィオーレ東京 ローズルーム	1月19日	石山
51	介護福祉士科事例研究報告会	上智社会福祉専門学校	上智大学四谷キャンパス	1月24日	野中、秋
52	平成22年度全国経営協 介護保険事業経営セミナー	社会福祉法人全国社会福祉協議会	パシフィコ横浜	1/25~26	石山
53	アクティブ福祉in東京 '10	社福)東京都社会福祉協議会 高齢者施設福祉部会 センター部会	津田ホール	1月28日	吉井、須永
54	特養老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働のための研修会	東京都社会福祉協議会	機械振興会館	2/7、2/8	増田
55	平成22年度レジオネラ対策講習会	東京都多摩府中保健所	府中市立中央文化センター	2月10日	谷村
56	特養老人ホームにおけるターミナルケアのあり方についての研修会	東社協高齢者施設福祉部会 職員研修委員会 ケアマネージャー研修委員会	榊エッサム 3Fグリーンホール	2月16日	遠藤
57	機能訓練指導員研修会「座位が変われば暮らしが変わる」	東社協高齢者施設福祉部会 職員研修委員会 機能訓練指導員研修委員会	東京セミナー学院 6F	2月25日	芦澤
58	平成22年度東京都介護支援専門員実務従事者基礎研修	財)総合健康推進財団	茗荷谷、国分寺	12/22、1/7、1/18、2/12、3/14	宗像
59	第13回東京都介護支援専門員実務研修プログラム	財)東京都福祉保健財団		1/24、28、2/9、11、19、3/10、11	吉田
60	ショートステイのケアプランを学ぶ 理論と実践	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	3月4日	牛島
61	新給与制度説明会(新給与制度の運用について)	ホーム	園内	8/3、8/18	各部署の主任、主任補佐、副主任
62	新給与制度説明会(新給与制度の運用について)	ホーム	園内	9/1、9/9、9/16、9/17、9/25、	全正規職員
63	人事考課基礎研修	ホーム	園内	10/28、11/11、11/26、12/15	全正規職員
64	新人材育成制度説明会(新人材育成制度の運用について)	ホーム	園内	2/9、2/24、3/10、(4/7、4/21、5/12)	全正規職員

## Ⅱ 桜町高齢者在宅サービスセンター

(通所介護・訪問看護・居宅介護支援・訪問入浴介護)

小金井きた地域包括支援センター (介護予防センター)

グリーンタウン小金井高齢者住宅 (管理)

### 【平成 22 年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (H22度)	利用率 (H21度)	利用率 (H20度)
介護保険事業	通所介護(一般)	30	8,850	7,931	26.98	89.6%	90.9%	91.5%
	通所介護(認知)	24	7,104	5,089	17.31	71.6%	79.3%	71.7%
	訪問介護	10	3,000	4,096	13.93	136.5%	112.8%	92.3%
	訪問入浴	8	2,350	1,806	6.14	76.9%	89.0%	100.6%
	居宅介護支援		2,280	1,922	160.2/月	84.3%	92.4%	90.3%
栄養事業	給食	60		13,627	55			
	配食サービス	70		19,393	66			
小金井市 委託事業	特定コース	8	720	344	7.17	-	88.8%	86.5%
	一般コース	6	576	273	5.69	-	121.2%	79.2%
	さくら体操	※106回 開催 打合回数 71回 会場訪問 35回						
	やすらぎ支援	※127日 実施 実利用者 57名 述利用者打合回数 71回 会場訪問 35回						

### 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

#### ① 一般型通所介護

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	305	284	439	238	198	133	34
割合	18.8%	17.5%	27.1%	14.1%	12.2%	8.2%	2.1%

#### ② 認知症対応型通所介護

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	0	0	94	195	116	92	83
割合	0.0%	0.0%	16.2%	33.6%	20.0%	15.9%	14.3%



## 【 職 員 】

	平成22年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成23年4月1日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1
副センター長	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護員	2	14	16	1	1		4	1	5	2	10	12
生活指導員	10	0	10	2	2			2	2	10	0	10
看護師	3	6	9		1	1	2	1	3	2	5	7
介護支援専門員	3	4	7				3	0	3	3	1	4
訪問介護員	1	9	10			2		2	0	1	11	12
運転員	0	3	3					0	0	0	3	3
栄養士	2	0	2	1				1	0	3	0	3
調理・調理補助	0	7	7					0	0	0	7	7
理学・作業療法士	0	3	3				1	0	1	0	2	2
事務員	0	3	3					0	0	0	3	3
高齢住宅管理人	0	10	10					0	0	0	10	10
清掃員他(洗浄員)	0	5	5					0	0	0	5	5
合計	22	64	86	5	5	3	10	8	15	22	57	79

### ■職員の動向

2010年度は、職員総数86名(常勤22名、非常勤64名)でスタートし、年度内の人事異動は、採用15名、退職22名であり、年度末職員数79名(常勤22名、非常勤57名)の在籍である。人事面での大きな事は、約20年間、桜町センターの運営管理の責任者であった三浦和行(前)センター長が下半期より体調不調で休暇し、平成22年度末で高齢福祉部門の管理職の任を解かれ、平成23年4月1日付で法人内異動となったことである。センター業務に出来るだけ支障のないよう本町センター長と各部門主任・責任者が協力し管理業務を分担し対応した。

- ・機能訓練・介護予防指導で長年、現場で貢献されたベテラン作業療法士が年度末で退職した。このためこの年度の1年をかけ新しい作業療法士へ様々な引継をおこなった。
- ・ケアマネ部門では、特定事業所加算の指定事業所となり、非常勤から常勤化を目指した。年度末には、常勤5名と非常勤1名体制が確立された。
- ・過去、約3年間、入退職の激しかった地域包括支援センターは、年度途中に欠員補充1名(男性)が採用され常勤5名体制となり以降、体制は安定化しつつある。
- ・相談部門においても介護部門においても、特に常勤職員は、困難ケース・権利擁護・事故・苦情などへの高い問題解決能力が求められ、またチーム内をまとめていく能力も求められる状況になってきている。助言・指導・サポートが乏しく孤立してしまうと退職に繋がる事実があるので改善に向けた対策が必要である。

## 【 施設運営状況 】

### 1. 特記事項

#### 1) 各サービスの管理業務の分散化と管理者変更について

徐々に進めていた各主任への管理業務委譲については、センター長が下半期に休養に入るに、至り、その必然性からも更に進め、月間の業務調整会を再機能化させることにより混乱を最小限にした。介護保険4事業と地域包括支援センターについては、以前は、センター長が全ての管理者としての届出になっていたが、実態に合わせ各部門の責任者である主任に管理者変更届出を行う事にし、次の事業所において変更届出を行った。(・地域包括支援センター管理者 三浦和行→松嶋聡子 ・ケアマネジメントセンター管理者 三浦和行→金丸直子) (その他の通所介護事業所・訪問介護事業所・訪問入浴事業所については、平成23年4月1日付で変更届が受理されるよう手続きに入った。

#### 2) 建設後20年経過、設備・機械・機器などの老朽化修繕更新について(設備支出)

建設後15年を経過したあたりから、建物及び付属設備・機械などの修繕や入替など更新の必要性が出てきた。緊急性の高いものから修繕や入替を行ってきたが、2000年の介護保険開始あたりから、それまで定期点検・フルメンテナンスなどで充分に対応していたが、財源が厳しくなるとともに、フルメンテナンスを一部メンテナンスに変更したり、定期点検回数を減じたり、故障時の対応になっていった。管理職も介護保険以降は修繕・メンテナンスに十分な目配せができなくなってきた。そのような中で、地下機械室で同時期に故障が重なり漏水が発生、その他にエレベータ・ボイラーなど次々設備機械等に重大な故障が発生した。

- ・11/2～3にかけて配水管の取水弁破損・地下排水ポンプ故障(複数)の同時故障。漏水。給水と排水系の同時故障により、排水槽が満水になりエレベータ機械室が浸水。これにより、ポンプ新規交換及びエレベータ基盤交換・緊急修繕を行う。約217万円。
- ・センター2階の特浴室を改装し、今後の事業展開をにらみ多機能な第二厨房を設置。約650万円。
- ・ボイラー関係の不具合・故障が続き、バーナー取替工事等行う。約87万円
- ・一般入浴室リフトの不具合で老朽化リフトを撤去し新設の個別浴槽設置。約151万円。
- ・開設以来の電話装置一式が不具合。新システムの電話器一式に交換。約118万円。

多数のサービスを持つ桜町センターの外線はこれまで4回線で内、1本が地域包括支援センターの相談受信専用回線であったことから、3回線でケアマネや包括センターと大勢の利用者を抱える各サービス事業所の電話対応は無理があり、ご利用者から電話が繋がらないと苦情も出ていた。電話装置・システムを一新したことで、使用可能回線を6回線とし問題解決に繋がっている。また、新システムは、本町センターと同システムを取り入れたことで、距離の離れたセンター間の各デスクへ内線(無料)可能となり、これも合わせて利便性が特段にあがった。

#### 3) 東日本大震災の影響について

3月11日の東日本大震災は、桜町センターにとっても大きな影響があった。当日の地震直後は、非常放送にて職員に非常対応の指示を出し、ご利用者様には落ち着いた行動を呼びかけた。エレベータは地震直後、緊急停止となったが当日夕方に復旧した。認知症のご利用者様が2階フロアで過ごされており帰宅時間前には複数の職員にて慎重に階段

誘導を行った。翌日から約一週間は、大きな余震の可能性と計画停電実施の可能性があり、止む無く通所介護の利用時間短縮と利用人数の制限で対応した。このことにより3月の利用率は64.5%と激減し収益も約200万減じている。その他のサービスは基本的に通常利用の実施を行った。（一部、小金井市より介護予防等の地域支援事業は4月いっぱいまでの利用中止の決定があった。）全サービスの利用者、当日から翌日にかけて安否確認が行われ全対象者の安全が確認された。

#### 4) 障害者雇用支援と小金井聖ヨハネワークセンターとの連携について

法人内の障害福祉部門である小金井ケアビレッジとは、食器洗浄などの障害者雇用で以前より連携を進めていたが、障害者就労支援施設である小金井聖ヨハネワークセンターが開設され、より積極的に進めた。栄養事業部において、1名を研修後、障害者のジョブコーチに選任した。今年度は、1名の障害者をワークセンターの実習後、12月に週労20短時間労働契約を結び、更に3か月の試用期間を経過し現在では、週労30時間の非常勤契約を年間を通して結んでいる。

#### 5) ケアマネジメントセンター・地域包括支援センターの運営状況について

ケアマネジメントセンターは、事業計画の中で、特定事業所（24時間対応等）の指定をめざし、常勤ケアマネジャの確保も行った上で7月より事業所指定を受けた。週労日数が少ない非常勤から常勤へシフトし、年度末には常勤5名と非常勤1名の体制で安定化してきている。地域包括支援センターも過去約3年は入退職が激しく不安定な時期もあったが、年度途中で欠員補充で相談員が採用され常勤5名体制が下半期組める事となった。ケアマネジメントセンター及び地域包括支援センターでは、現在、きめ細かいサービスを行うと共に、定期的なミーティングで情報の共有や課題解決にのぞみ、主任とスタッフの個人面談も進み業務安定化の方向にある。

#### 6) 認知症対応型通所介護の2階フロア利用について

桜町センターでは、12名定員の認知症対応型通所介護が2ユニット（呼称：第一さくらんぼ・第二さくらんぼ）あり、これまで、重度認知症などは2階フロアの第一さくらんぼ室で対応し、比較的、集団行動が可能な方・重度化してない方（第二さくらんぼ）は、1階フロアで一般通所介護のプログラムを共有していた。当初利用の少なかった第二さくらんぼであったが、近年利用者が増加するとともに認知症の症状が顕著となり一般の中でプログラムを共有することが難しくなってきた事などから、第二さくらんぼを2階フロアに全面移動し、第一さくらんぼと連携し認知症ケアを進める取組を行った。この移動に関連して、要支援1・2のご利用者の活動場所が1階フロアへ移った。それぞれ混乱もあるが試行錯誤しながら、ご利用者本位のサービスを目指している。

#### 7) ヨハネ会高齢福祉部門：戦略室から法人企画室へ

8月1日付でヨハネ会高齢福祉部門の戦略室が創設された。これは、現行事業での閉塞状況を抜本的に打開するために新規事業などホーム・センターで検討することに目的があった。その後の平成23年4月1日付に法人で新たに企画室が創設され、各施設から選出された委員から構成されるので、今後は法人企画室に連携し最大限協力していくこととなる。

## 2. その他・教育・研修

- 2010年度の職員研修は、下記の通り実施するとともに、職員の人事給与管理制度の見直しは前年度から着手し今年度も継続し進めた。人事教育面において、等級定義、キャリアパスや教育研修制度が一つの流れとしてつながり、職員の育成システムとして機能するよう目指している。

- 2010年度の研修も、

- ①部署に特定せずに必要な研修参加ができること

- ②目的を明確にした指名研修

- ③スキルアップ・資格取得講座など

活発な研修体制、研修プログラム実施をめざしたが、成果としては、思うように研修報告会が開催できず、研修成果の共有が不十分であった。引き続き次年度の課題とする。職員の研修希望を取り入れるなどの工夫をしていきたい。

### Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護）

#### 【平成22年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H22度)	利用率(H21度)	利用率(H20度)
通所介護（一般型）	25名	20.7名	82.9%	84.8%	84.8%
認知症型通所介護	12名	8.5名	71.6%	71.5%	71.5%
食の自立支援事業	73名	85.7名	117.4%	106.1%	106.1%

#### ① 通所介護（一般型）

平均年齢 84.4歳（最高99歳、最低55歳） 男女比率 男性32.3%：女性67.7%

利用登録者 要介護者61名 要支援者20名 合計81名（2011.3月）

新規利用者 38名 主な利用理由

（自宅生活を保つ為の利用・転倒や認知症予防・家族介護軽減・孤立防止・入浴希望等）

廃止利用者 27名 主な廃止理由

（逝去・施設入所・長期入院・転居・他サービス利用）

#### ② 認知症対応型通所介護

平均年齢 82.2歳（最高94歳、最低66歳） 男女比率 男性25.0%：女性75.0%

利用登録者 要介護者23名 要支援者0名 合計23名

新規利用者 6名 主な利用理由

（認知症の方の全面的支援・認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）

廃止利用者 5名 主な廃止理由

（逝去・施設入所・長期入院）

#### 【職員】

	平成22年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成23年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1							1		1
生活相談員	2		2	1						3		3
介護職員		10	10			3	3				10	10
看護職員		4	4			2					6	6
栄養士調理		4	4			3					7	7
宅配員		8	8			4	1				11	11
事務員		1	1								1	1
運転員		3	3			1	1				3	3
清掃員		3	3			1					4	4
合計	3	33	36	1		14	4	15	4	4	42	46

※ 栄養士調理員は、3名増は桜町高齢者センターよりの異動増。

※ 介護職員：産休育休者 2名、上記に含めず。

※ 平成 23 年 3 月 31 日現在の非常勤は介護職員の準職員（常勤並勤務者）5 名を含む。

### 【施設運営状況】

今年度は第 1 期（5 か年：平成 18 年度～平成 22 年度）である小金井市指定管理者期間を最終年度であった。

平成 23 年 1 月には、次期指定管理者選定委員会が開催され、過去 5 か年の評価を受けた上で無事に第 2 期（平成 23 年度～平成 27 年度）の次期指定管理者として指定されることとなった。この 5 か年の内では、2 年目の平成 19 年度に職員の急な退職や利用率低迷が起り、センター長が交代になった年度が、施設運営としては厳しい年度であったが、全職員が一致して、法人の理念に立ち返り、困難事例の受け入れなど質の高い福祉サービスを展開するや、食の自立支援事業の強化によりそれ以降は、改善の方向に向かった。

当該年度も、過去 3 か年の改革と成長を継続したかったが、通所介護利用率は、前年度対比で伸びず微減し、財務状況についても今期は黒字化でできず課題が残された。

要因として、ヨハネ会高齢福祉部門の桜町高齢者センターとは、在宅サービス分野で特に連携し運営しており、平成 21 年度から平成 22 年度にかけて、本町高齢者センターよりさらに運営状況の厳しい桜町高齢者センターに職員異動等で人的援助及び財務的支援を行ったことが挙げられる。具体的には、①地域包括支援センターの採用人事が進まず、本町センターより経験ある常勤相談員を異動させたが、その補充採用が平成 22 年 9 月まで出来ず、相談員体制が厳しくなり新規利用者受け入れなどが遅れたこと。②一体的に稼働している栄養事業部非常勤職員 3 名を桜町センターから本町センターへ異動させた事などがあげられる。但し、本町高齢者センターも厳しい運営状況の折には、同様に桜町高齢者センターから支援を受けており両施設は、共に支え合い、市民へ対し質の高いサービスを目指しているのだからこれらの協力関係は必然であり、今後も強い連携は必要であると思われる。

《 一般型通所介護・認知症型通所介護 この 1 年の概要 》

- ・ 3 月 11 日に起きた東日本大震災と計画停電の影響が少なからずあった。

地震当日は、エレベータが緊急停止し復旧が翌夕方となり 2 階 3 階がご利用者のフロアである本町センターでは、階段での移動誘導を慎重に行った。また、重介護度の方や階段移動の困難な方は、スタッフが肩掛けベルト式担架にて移動介助した。

翌一週間は大きな余震の可能性が高かった事と計画停電の対応でセンターとしては止む無く、利用時間と利用者受け入れ数の制限を行った。ご利用者と職員の安全確保や東京での大地震被災時にヨハネホームや訪問系サービスを支援するためであったが、結果的に利用率は 3 月は激減し 63% となり、収入減となった。

- ・ 曜日により利用率のバラつきがあった。午後の活動プログラムに多様性が見られなかったこと（火曜日）やショートスティ利用などの影響によるものと考えられる。介護予防を意識したプログラム導入や休暇の事前把握と振替利用により今後改善を進める。
- ・ 職員が一般型にも認知症にも対応できるようにマルチジョブを更に進めた。結果としてケアの質の向上と均一化が進んだ。
- ・ サービスマニュアルの見直しについては、ワーカーミーティングの定期開催が進まない状況があるも一部改善にある。（入浴マニュアルなど）
- ・ 介護予防通所介護については、1 日 5 名利用の目標であるが平均 3.7 名のご利用状況にあり、

狭い空間で工夫した個別的な運動器訓練プログラムを検討している。

- ・口腔ケアについては、職員の研修参加によりケア中の視点が拡がり技術の向上が見られている。口腔ケアの質の向上は、利用者の感染症発症率も抑え、嚥下能力のアップにも繋がり成果が出て来ている。

### 【利用者支援状況】

利用者支援については下記の困難ケースに対して創立の精神に従い各サービスが連携し積極的支援を進めた。

- ・アルコール依存と認知症発症により、入院加療後に退院された 75 歳男性利用者のケースでは、介護者である妻のうつ病が夫退院後に重くなり極めて困難なケースとなった。退院直後、妻は夫の認知症状で連日の不眠状態から体力的にも限界となり、認知症対応型デイの導入が不可欠であった。本人にサービス拒否があり、桜町ケアマネジメントセンターの担当ケアマネージャと連携し、当初は介護保険外で無料にて来所・見学を重ねて徐々に利用に繋げていった。突発的な行動や言動から、他の利用者様が不穏になり影響を受け、多くの時間を個別対応でケアした。現在、家族はセンターを頼りにご本人の在宅生活を続けられているが、介護力が弱いので今後についても相談に応じている。
- ・医療面での受け入れも、81 歳女性利用者でストマ使用の方の受け入れやバ 77 歳男性利用者でルーンの方の入浴実施など医療機関・ケアマネージャと連携しながら対応を行った。
- ・虐待が疑われる 85 歳女性利用者は、精神的な影響か嘔吐が頻繁で個別な対応をし、地域包括支援センターと連携しケアを実践した。

### 【施設整備状況】

- ・12 月度に玄関暖房強化と防災の視点で灯油ファンヒーターからガス暖房ヒーターへ切り替え工事を実施。約 24 万円。(灯油の購入・管理がなくなり業務軽減進む)で玄関灯交換。その際タイマーから ONOFF の出来るスイッチ式へ変更し電気省力化)
- ・2 月度に食品庫空調クーラー故障し新規エアコン入替を行う。13 万円。
- ・3 月度にブラインド修理 (第二次) 行う。約 9 万円。
- ・小金井市直接の予算で、全館の電話機器システムの緊急修繕入れ替え工事行う。

### 【リスクマネジメント】

- ① 事故報告書作成・届出 0 件 (保険者：小金井市宛)  
今期、事故報告書の該当事例なし。
- ② 苦情受付記録簿作成 0 件  
今期、苦情受付簿の該当事例なし。
- ③ ヒヤリハット事例 (事故には至っていない気づき：毎月職員会議で報告検討行う)  
一般型通所介護  
転倒 21 件・転落 2 件・異食誤嚥 3 件・送迎 2 件・入浴 2 件・徘徊 0 件・誤配薬 0 件  
個人情報やその他分類 24 件  
認知症対応型通所介護  
転倒 21 件・転落 2 件・異食誤嚥 3 件・送迎 2 件・入浴 2 件・徘徊 0 件・誤配薬 0 件  
個人情報やその他分類 24 件

【教育研修】

2010年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修実施一覧表

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2010/4/15	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座①	茗荷谷	久保あゆみ
2010/4/16	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座②	茗荷谷	久保あゆみ
2010/5/19	その他	消防訓練・応急救護訓練(新入職員等研修)	小金井市	大木清美
2010/5/19	その他	消防訓練・応急救護訓練(新入職員等研修)	小金井市	吉野 遼
2010/5/25	その他	労務管理一般講習(立川労働基準監督署)	立川市	藤井律治
2010/5/26	虐待防止	高齢者虐待防止対応・権利擁護について	杉並区	嶋田八千代
2010/5/29	栄養	高齢者の食べることを支援する栄養ケアマネジメント	文京区	小林 学
2010/6/14	その他	都民集会:介護保険討論会(東社協)	中野区	藤井律治
2010/6/18	その他	介護報酬請求事務に関する研修会(東社協)	飯田橋	藤井律治
2010/6/24	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座①	茗荷谷	野口照代
2010/6/24	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座②	茗荷谷	野口照代
2010/7/2	介護予防	口腔機能向上サービス導入セミナー	墨田区	国香恵子・園部知子
2010/7/9	認知症	認知症の人の理解と生活支援の実践に向けて	代々木	久保あゆみ
2010/7/26	認知症	認知症ケアの7原則と日常生活支援	杉並区	清水香名子・中浦優子
2010/9/15	看護	高齢者の口腔ケア実技研修会(保健所)	府中	清水香名子・井上佳代子
2010/9/17	管理者	権利擁護・虐待防止(都福祉保健局)	中野区	藤井律治
2010/9/24	看護	高齢者の口腔ケア実技研修会(保健所)	府中市	中浦優子
2010/9/25	認知症	タクティール・ケア	園内研修	園部知子・久保あゆみ・清水香名子
2010/9/29	その他	権利擁護:成年後見制度	小金井市	大谷夏海
2010/10/5	総合	アクティブ福祉(高齢福祉研究大会)	新宿区	井上優子・嶋田八千代
2010/10/12	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座①	茗荷谷	吉野 遼
2010/10/13	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座②	茗荷谷	吉野 遼
2010/10/25	栄養	栄養管理講習会 日本人の食事摂取基準	府中市	井戸 恵
2010/10/26	リスクM	介護現場におけるリスクマネジメント研修会	飯田橋	吉田貴夫
2010/10/27	管理者	介護サ事業者支援研修会:リスクマネジメント	九段	藤井律治
2010/11/17	その他	レクレーションセミナー センター部会ブロック会	立川市	大谷夏海
2010/11/25	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座①	茗荷谷	大木清美
2010/11/26	認知症	東京都認知症介護実践者研修 公開講座②	茗荷谷	大木清美
2010/12/8	介護予防	口腔ケアと口腔リハ実技習得型セミナー	墨田区	大谷夏海
2010/12/13	認知症	認知症高齢者とのコミュニケーション バリデーション	中野区	嶋田八千代
2011/1/17	管理者	施設の震災対策・事業継続計画セミナー	新宿区	藤井律治
2011/1/26	その他	地域ケア・介護保険制度どうなる (東社協)	新宿区	小林 学
2011/2/25	権利擁護	高齢者の消費生活トラブル (きた包括セ)	小金井市	井戸 恵
2011/3/4	認知症	次の時代の認知症医療・福祉・介護	文京区	藤井律治





### 3. 医療部門

#### I 総合病院 桜町病院

(生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業)

#### 【平成22年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (H21度)	利用率 (H20度)	利用率 (H19度)
入院	199床	174.6名	63,789名	87.8%	90.4	89.7%
外来	—	398.4名	名	—	—	—

時間外患者数 560人

平均在院日数 25.5日 18.0日(療養病床除く) 療養病床 699.3日

新入院患者数 2,505人(前年度 2,415人) 退院患者数 2,496人(前年度 2,425人)

紹介率 10.7% 逆紹介率 8.4%

手術室手術件数 778件(前年度 662件)(うち全麻件数 495件)

分娩件数 422件(前年度 485件)

人間ドック件数 入院 20件(前年度 21件) 外来 736件(前年度 726件)

#### 【職 員】

区 分	平成22年4月1日 の職員数		年間退任・就任				平成23年3月31日 の職員数	
	正職員	非常勤職員	正職員		非常勤職員		正職員	非常勤職員
			就任	退任	就任	退任		
院長	1	0	0	0	0	0	1	0
副院長	1	0	0	0	0	0	1	0
医師	22	43	6	1	5	8	22	42
看護師	84	38	8	15	16	12	79	42
准看護師	8	2	2	0	0	1	10	2
看護助手	21	6	0	2	1	1	19	7
薬剤師	5	1	0	1		0	4	2
放射線技師	7	2	1	2	0	2	6	0
臨床検査技師	7	2	1	1	1	1	7	2
PT・OT・ST	11	3	4	0	1	0	12	4
栄養士	8	0	0	0	0	0	8	0
事務	22	10	5	5	4	4	21	10
施設	3	0	0	1	1	0	2	1
その他	12	28	6	4	8	11	11	24
合計	212	135	33	32	37	40	203	136

## 【運営状況】

平成22年度は、経営改善を進める中で単年度黒字化を達成することを柱とした病院運営を行い、悲願の単年度剰余を計上することができた。ただし、年度後半におけるインフルエンザの院内散発に伴う入院の一時制限や東日本大震災による計画停電の情報により一部手術を制限せざるを得なかったことなどから、予定した目標数値には届かなかった。

平成22年度は平成19年度から始めた経営コンサルタントを使つての経営改善策が支出の削減に一定の効果が見られているとはいえ、経営の安定化のためには収益を上げることが重要であるとの基本認識の下に収益向上に力を入れた。

今年度は診療報酬改定の若干のプラス改訂が行われたが、この改訂は急性期高次機能病院に大きなプラスとなるものであった。そんな中で、当院としては、地域連携関係の加算取得、PT・OTの採用によりリハビリ基準の引き上げ、急性期看護補助加算の取得などへの対応により若干の収益の向上を図ることができた。

平成22年度において最も収益増加に効果をもたらしたのは、整形外科領域の診療の充実（診療分野の拡充に伴う患者数の増、診療単価のアップ）である。とりわけ、手術分野の充実を図ったこと、すなわち、整形外科常勤医師2名の採用、麻酔科常勤医師1名の採用、手術室看護スタッフの補充、手術器材の整備等手術実施環境を充実させることにより、整形外科の手術が昨年度比月8.1件の増加、婦人科の手術も昨年度比月3.0件増加させることができた。これが収益の改善に大きく寄与した。

これらにより、経営状況は上向きの状況になった。入院診療単価が前年度比2,774円/日アップした。また、外来患者数は順調に増加しており、新患者数も一定水準を維持している。この結果、医業収益は30億円の大台を超えることができた一方、手術件数の増に伴う診療材料費の増加（昨年度比+4千万円）、常勤医師の採用などにより人件費も増加（昨年度比+9.9千万円）しているものの、医業利益で58,794千円、経常利益で99,282千円の利益を計上することができた。（脚注）

しかしながら、医業収益に占める人件費の割合は、依然として64.4%と高く、収益力が脆弱であること、依然として大きな累積欠損金を抱えている状況に変わりはない。これまで実践してきた種々の改善方策に加え、内科医師の確保により身近で頼れる病院作りが重要な課題である。その上で引き続き人材の育成に努め、安全で安心な医療を提供し続けることができる体制を構築しなければならない。平成23年度には、当院が経営改善途上にあることを職員と共有し、安定経営に向け全職員一丸となって安定的な収益を確保する取り組みを続けていく予定である。

（脚注）今年度は、賞与引当金繰入額及び退職引当金繰入額を計上していない。

## 【患者動向】

平成22年度患者状況

区分	入院		外来	
	一日平均患者数（人）	一日平均診療単価（円）	一日平均患者数（人）	一日平均診療単価（円）
内科	50.8	23,080	135.8	7,203
療養	43.1	17,926		
外科	14.1	30,238	18.6	6,296
整形外科	25.3	34,938	55.8	5,080
小児科	3.2	27,177	60.1	4,961
精神神経科			41.0	4,882
眼科	0.6	79,948	32.6	5,388
産婦人科	18.7	70,974	52.5	4,903
ホスピス	14.4	39,140	1.9	3,677
ホスピス内科	4.4	24,438		
訪問看護			0.1	19,599
ドック・健診	(0.1)			
計	174.8	30,875	398.4	5,755

## 【施設整備状況】

(整備機器)

インフィニティビジョンシステム（眼科）

脊椎外科用手術フレーム（整形外科）

心電計（検査科）

オーダーリングシステム端末（産婦人科）

オーダーリングシステム端末（ドック）

オージオメータ（検査科）

(修理修繕)

ホスピス給湯器・冷却塔部部品交換

### 【教育研修】

研修名	年月日	開催場所	出席者数
救命処置訓練（実技）	22. 7. 8	5階リハビリ訓練室	40名
結核の対策について	22. 7. 12	桜町病院別館講義室	46名
認知症患者の看護	22. 9. 22	桜町病院別館講義室	25名
薬剤耐性菌による院内感染防止について	22. 10. 28	桜町病院別館講義室	50名
社会資源の活用	22. 11. 24	桜町病院図書室	25名
医療安全患者安全のすすめ	22. 12. 1	桜町病院別館講義室	55名
災害マニュアル研修	22. 12. 3	桜町病院別館講義室	
接遇研修会	22. 12. 9	桜町病院別館講義室	42名
院内研究発表会 （アクシデントレポート分析含む）	23. 3. 12	5階リハビリ訓練室	55名

### <保育所>

保育園児数等      園児延数 3, 190 人  
                               職員延数 1, 948 人

24時間保育      延回数      135 回  
                               延保育児数 252 人

行事等      定期健康診断   5月、11月  
                               遠足              10月16日   33人参加（園児19人）  
                               クリスマス会   12月18日   30人出席（園児15人）  
                               お別れ会        3月31日    29人出席（園児20人）

### <児童ショートステイ>

利用者数      短期入所利用数    人数 345人    利用日数 939日  
                               日中一時支援利用数   人数 347人    利用日数 706日

利用者住所地      小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市、その他

## Ⅱ 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

### 【平成 22 年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	14	14	15	14	12	12	12	12	13	13	13	15	159
訪問件数	68	62	79	69	66	60	64	63	63	66	58	70	788
介保利用者	48	50	48	50	51	50	54	53	53	50	46	49	602
訪問件数	212	186	234	230	224	213	205	214	211	193	177	201	2500
総訪問件数	280	248	313	299	290	273	269	277	274	259	235	271	3288

### 【職 員】

正職員 3名（変更なし）

### 【施設運営状況】

平成 22 年度は非常勤の募集に応募がなく、常勤職員 3 名の体制で利用者数の維持に努めた。年間に於いて新規利用者 41 名（昨年より 10 名増）に対し、終了者 39 名（昨年と同数）であった。年度計画で挙げた月間平均目標件数 270 件（医療保険 60 件、介護保険 210 件）、目標収入 2,100,000 円に対し、月間平均数 274 件（医療保険 66 件、介護保険 208 件）、月額平均収入額 2,190,114 円となり、目標をわずかだが上回る結果となった。

これは新規利用者が安定し確保できたこと、また職員の異動がなかったことで 3 名の職員が最大限に訪問を行った結果である。医療保険においては精神科からの依頼（自立支援法）が年々増えている傾向にあり、当ステーションの特徴になりつつある。介護保険においては最低利用料の訪問看護 1（30 分未満の訪問）の利用件数は多く、更なる増収には訪問看護 2（60 分未満）への移行など検討することが必要であった。

運営方針に挙げている「担当制により利用者・家族との関係性を重視し、満足度の高いケアを目指す」ことを鑑みると、職員それぞれが担当する利用者人数には限りもあり、また事業所基準の最低人数での運営が続いており、ケアの質の向上を図るため研修時間の確保、職員の健康管理を保つ観点からも非常勤職員採用は必須である。

【利用者支援状況】.

1. 利用者数（年間登録者）

102名（男 38名 女 64名）

2. 利用者の住所

小金井市 102名

3. 主治医

桜町病院 26名（前年度より7名減）

その他の医療機関病院 33名（前年度より10名増）

市内の開業医院 34名（前年度より1名減）

他市の開業医院 9名（前年度と同数）

【施設整備状況】

なし

【教育研修】

研修名	年月日	場所	出席者
レビー小体型認知症	22年6月18日	立川女性総合センター	當山
結核対策	22年7月12日	別館3階講堂	杉山
権利擁護	22年7月16日	小金井市民会館	小暮
失語症	22年8月5日	病院リハ室	當山
呼吸リハビリ	22年10月16日	三鷹ネットワーク大学	杉山
摂食・嚥下	23年1月10日	損保会館	當山

## 4. 公益事業部門

### I 聖ヨハネホスピスケア研究所

#### 【平成22年度活動状況報告】

##### 1) ホスピスセミナー

医療関係者以外に一般市民、看護学生など対象に実施。

12回実施。 参加者396名

##### 2) 看護師研修

###### a) ナースのためのホスピス緩和ケア研修6週間コース

(笹川医学医療研究財団助成事業)

基本的な講義を日本看護協会が3週間行い、残りの3週間の臨床実習を受託。

年間参加者15名

###### b) 緩和ケア認定看護師の臨床実習の受け入れ

静岡県立がんセンター認定看護師教育課程 5週間 2名

###### c) 個人研修の受け入れ

年間 2名 各1週間ずつ

##### 3) 医師・その他の個人研修

医師 1週間 7名

##### 4) 音楽療法

入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。

##### 5) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。 一般市民を対象。

テーマ「青木新門 いのちを語る」 講師：青木新門氏

(9月9日 ルネこだいら大ホール)

参加者 553名

##### 6) 学会発表・研究

a) ホスピスセミナーに関する評価と課題 (第34回日本死の臨床研究会)

b) ホスピスセミナーが看護学生の死生観に与える影響

(第25回日本がん看護学会学術集会)

##### 7) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に7回の講習を実施。

参加者 42名

##### 8) 「アロマセラピー」の取り組み

看護研究員と委託研究員のアロマセラピストと共に、患者へアロマセラピーを  
毎週1回実践。 年間延べ254ケースに実施した。



## 9) 研修会の実施

主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の3回の研修会を実施した。

a) 「終末期がん患者に対するケアマネの役割」

(7月 秋山正子先生 参加者111名)

b) 「末期がん患者をもつ家族へのケア」

(10月 沼野尚美先生 参加者85名)

c) 「家族ケアの一貫としてのグリーフケア」

(12月 蛭田みどり先生 参加者63名)

d) 「事例に学ぶ疼痛コントロール」

(聖ヨハネホスピスと共催 2月 大井先生 参加者42名)

## 【職員】

変更なし

## 【施設運営状況】

特になし

## 【施設整備状況】

なし

### 三 理事会並びに評議員会

#### 1 理事会

第 251 回 平成 22 年 5 月 26 日（水） 桜町聖ヨハネホーム 3 階会議室

- (議案) 1 平成 21 年度事業報告及び決算報告について  
2 諸規程の改訂について（育児休業、介護休業法の改正に伴う）  
3 桜町病院の賞与資金借入について

第 252 回 平成 22 年 7 月 27 日（火） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 評議員の選任について  
(議案) 1 諸規程に改訂について  
(1)定款細則  
(2)経理規程  
(3) 役員及び評議員の報酬等に関する規程  
(4)障害部門居宅支援事業関連の運営規程  
(5)高齢部門給与規程  
(6)高齢部門ケアーマネジメント事業の運営規程  
2 法人の資金管理について  
(1) 富士聖ヨハネ学園会計繰越金の取り扱い  
(2) 富士聖ヨハネ学園の移行時積立金の取り扱い  
(3) 富士聖ヨハネ学園の修繕積立金の取り扱い  
3 桜町病院の名称変更、組織図の改訂について  
4 就労継続事業（B型）の開設について  
5 富士聖ヨハネ学園東京事業課の分立検討について  
6 定款の変更認可申請について（グリーンタウン高齢者住宅管理会計の公益事業会計への追記）

第 253 回 平成 22 年 9 月 27 日（月） 理事長室

- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告（平成 22 年 7 月 28 日～9 月 27 日）  
(議案) 1 諸規程の改訂について  
(1)富士聖ヨハネ学園給与規程

第 254 回 平成 22 年 11 月 30 日（火） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 障害者地域生活支援センターの開設について  
2 忍野ケアビレッジの現地指導結果について  
3 理事長専決事項の経過報告（平成 22 年 9 月 28 日～11 月 23 日）  
(議案) 1 平成 22 年度補正予算について  
2 諸規程の改訂について  
(1)経理規程  
3 資産運用の管理について

第 255 回 平成 23 年 2 月 24 日 (木) 理事長室  
(議案) 1 平成 22 年度民間社会福祉施設設備改善整備費補助金について  
(富士聖ヨハネ学園)

第 256 回 平成 23 年 3 月 22 日 (火) 桜町病院別館 3 階講義室  
(報告) 1 富士聖ヨハネ学園の実地指導について (山梨県)  
2 忍野ケアビレッジ利用者の支援状況について (経過説明)  
3 理事長専決事項の経過報告について  
(平成 22 年 11 月 24 日～平成 23 年 3 月 8 日)  
(議案) 1 法人の中期行動計画について  
2 基本財産の取得について  
3 平成 23 年度事業計画について  
4 平成 23 年度予算について  
5 平成 22 年度補正予算について  
6 諸規程の改訂について  
(1) 本町高齢者在宅サービスセンター 運営規程  
(2) 富士聖ヨハネ学園 就業規則  
(3) 富士聖ヨハネ学園 給与規程  
(4) 小金井聖ヨハネワークセンター 重要事項説明書  
7 施設長の任命及び施設の人事について

第 257 回 平成 23 年 3 月 31 日 (木) 書面評決  
(議案) 1 諸規程の改訂について  
(1) 桜町病院 組織規程

理事及び監事一覧 (任期：平成 23 年 5 月 31 日まで)

理事長	渡邊元子			
理事	岡村初子	相松幸子	百瀬雄次	柏本洋子
	柴崎啓一	池田順子	横山文彦	濱本隆三
監事	村松光春	駒村 裕	米川 覚	

## 2 評議員会

第 65 回 平成 22 年 5 月 26 日 (水) 桜町聖ヨハネホーム 3 階会議室

- (議案) 1 平成 21 年度事業報告及び決算報告について  
2 桜町病院の賞与資金借入について

第 66 回 平成 22 年 7 月 27 日 (火) 桜町病院別館 3 階講義室

- (議案) 1 諸規程に改訂について  
(1)定款細則  
(2)経理規程  
(3) 役員及び評議員の報酬等に関する規程  
(4)障害部門居宅支援事業関連の運営規程  
(5)高齢部門給与規程  
(6)高齢部門ケアマネジメント事業の運営規程  
2 法人の資金管理について  
(1) 富士聖ヨハネ学園会計繰越金の取り扱い  
(2) 富士聖ヨハネ学園の移行時積立金の取り扱い  
(3) 富士聖ヨハネ学園の修繕積立金の取り扱い  
3 桜町病院の名称変更、組織図の改訂について  
4 就労継続事業 (B 型) の開設について  
5 富士聖ヨハネ学園東京事業課の分立検討について  
6 定款の変更認可申請について (グリーンタウン高齢者住宅管理会計の  
公益事業会計への追記)

第 67 回 平成 22 年 11 月 30 日 (火) 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 障害者地域生活支援センターの開設について  
2 忍野ケアビレッジの現地指導結果について  
3 理事長専決事項の経過報告 (平成 22 年 9 月 28 日～11 月 23 日)  
(議案) 1 平成 22 年度補正予算について  
2 諸規程の改訂について  
(1)経理規程  
3 資産運用の管理について

第 68 回 平成 23 年 3 月 22 日 (火) 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 富士聖ヨハネ学園の現地指導について (山梨県)  
2 忍野ケアビレッジ利用者の支援状況について (経過説明)  
3 理事長専決事項の経過報告について  
(平成 22 年 11 月 24 日～平成 23 年 3 月 8 日)  
(議案) 1 法人の中期行動計画について  
2 基本財産の取得について  
3 平成 23 年度事業計画について  
4 平成 23 年度予算について

- 5 平成 22 年度補正予算について
- 6 諸規程の改訂について
  - (1) 本町高齢者在宅サービスセンター 運営規程
  - (2) 富士聖ヨハネ学園 就業規則
  - (3) 富士聖ヨハネ学園 給与規程

評議員一覧（任期：平成 23 年 5 月 31 日まで）

更田義彦	浜上光明	星 和夫	寺西英夫
小浜 進	宮本 誠	篠原 熙	杉立真理子
保坂正克	鴨下和恵	渡邊元子	岡村初子
相松幸子	百瀬雄次	柏本洋子	柴崎啓一
池田順子	横山文彦	濱本隆三	

## 四 経営会議

平成 22 年 4 月 20 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 繰入金処理伝票について
- 2 法人本部の機能要望について
- (議案) 1 平成 21 年度事業報告書及び決算資料の作成について
- 2 省エネルギー法について
- 3 会計責任者の選任（確認）について
- 4 経営会議のメンバーについて

平成 22 年 6 月 15 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 法人のホームページとインターネットドメインについて
- 2 省エネ法のデータ提出について
- 3 法人本部の機能要望アンケートについて
- 4 福祉の仕事就職フォーラムについて
- (議案) 1 忍野ケアビレッジの再発防止取り組みについて
- 2 総合病院名称の廃止について
- 3 監事監査での指摘事項に対する対応について
- 4 各施設の金庫カギの保管について

平成 22 年 7 月 20 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 各施設の金庫カギの保管について
- 2 省エネ法のデータ提出について
- 3 法人本部の機能要望アンケートについて
- 4 月次報告について
- (議案) 1 諸規程の改訂について
  - (1)定款細則
  - (2)ケアーマネジメント運営規程について
  - (3)職員等級制度の運用について
- 2 組織について
  - (1)桜町病院の組織図について
  - (2)東京事業課の分立検討について
- 3 新規事業の開設について
  - (1)就労継続支援 B 型の開設について

平成 22 年 8 月 24 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 小金井市福祉保健部との協議について
- 2 山梨地区居宅支援部門の検証について
- 3 職員等級制度等による給与規程の改訂について
- 4 あさひ作業所のその後について

- 5 説明時の新旧表の作成方法について
- 6 経営会議での月次報告について
- (議案) 1 監事監査指摘の進捗状況について
- 2 各施設の金庫カギの保管について
- 3 規程類の整備状況について
- 4 法人のホームページについて

平成 22 年 9 月 21 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 監事監査指摘の未回答報告について
- 2 規程類の整備状況報告について
- 3 ホームページの検討メンバー選定について
- 4 月次報告 (8 月度報告) について
- (議案) 1 平成 22 年度補正予算について

平成 22 年 10 月 26 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (9 月度報告) について
- 2 障害者地域生活支援センターの設立について
- 3 理事長専決事項の各施設からの報告方法について
- (議案) 1 省エネ法に基づくエネルギー管理について
- 2 11 月 30 日の理事会開催について (補正予算その他の議題の確認)

平成 22 年 12 月 21 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (10 月度報告) について
- (議案) 1 平成 23 年度事業計画及び予算のスケジュールについて
- 2 児童ショートステイについて

平成 23 年 1 月 25 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (11 月度報告) について
- (議案) 1 社会福祉法人新会計基準について
- 2 法人の中期行動計画について
- 3 法人のホームページについて
- 4 障害福祉部門組織について

平成 23 年 2 月 22 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (12 月度報告) について
- 2 平成 23 年度事業計画及び予算ヒヤリングスケジュールについて
- (議案) 1 企画室の設置について
- 2 諸規程の改訂について
- 一富士聖ヨハネ学園給与規程

経営会議メンバー一覧

理事長	渡邊元子
法人本部	竹川和宏（事務局長）
医療部門	柴崎啓一（桜町病院院長） 小林宗光（桜町病院副院長） 富田周次（桜町病院事務部長）
高齢福祉部門	相松幸子（高齢福祉部門顧問） 石山裕明（聖ヨハネホーム園長） 三浦和行（桜町高齢者在宅サービスセンター長） 藤井律治（本町高齢者在宅サービスセンター長）
障害福祉部門	角張洋和（聖ヨハネ学園園長） 勝見正（聖ヨハネ学園副園長） 濱本隆三（障害者地域生活支援センター長）